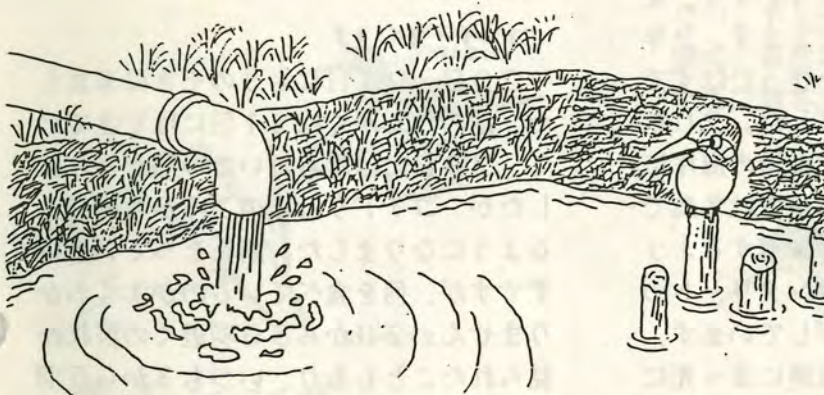
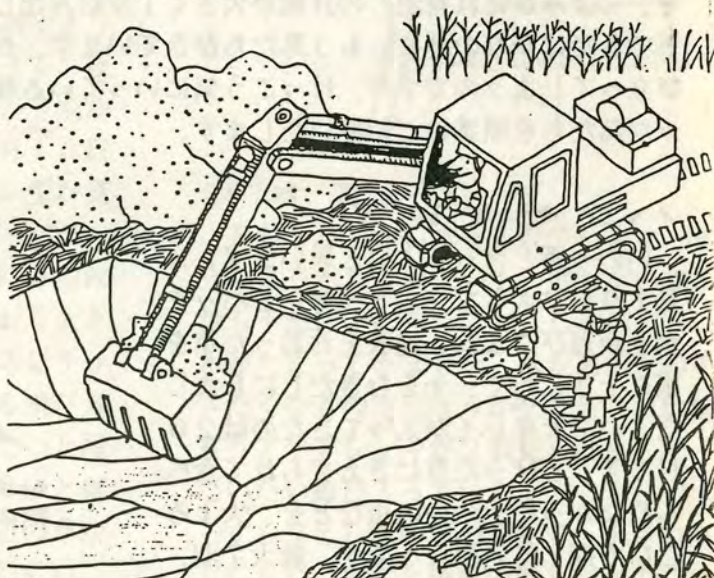


すすがも通信 46

行徳野鳥観察舎友の会会報 1987年10月1日発行

特集

あたらしい
池の鳥たち



トミタ 行徳-画

あたらしい池の鳥たち

待ちに待ったあたらしい池がとうとう完成しました。50m×90mの池が2面です。8月19日着工、31日竣工。書類をつくったり、説明したり、提出したりして、池の造成の許可を申請するまでに丸3か月、それから許可がおりるまでに丸半年。やっとのことで、“よみがえれ新浜”の計画が大きく1歩踏み出したようです。

できたばかりの池に、もう鳥たちがきています。かくれ場がないので、のぞくとすぐ飛び立ってしまうのですが、けっこう気にいっている様子です。今回は、あたらしい池に入った鳥たちを順番にご紹介いたします。

ハクセキレイ

いの一番と言ってよいと思います。8月19日に大きなブルドーザーとバックホーが運びこまれ、地表をおおった草を根こそぎにして、土をむきだしにしました。ハクセキレイが入ってきたのは20日です。しげった草にさえぎられて食べられなかった土の中の虫などを、大よこびで探していたようです。最大7羽。

行徳ではごくふつうのセキレイで、夏も小数が残ってヒナをそだてます。今年もたぶん塩浜橋の下に巣を作ったはずで7月に巣立った若鳥を見ました。20年ほど前までは、東北から北海道の海岸に巣を作る種類で、関東より南では冬鳥でしたが、今ではあちこちで繁殖するようになっています。道路やコンクリートの護岸などでもよく餌をさがしています。荒れ地が好きなので、造成地にまっ先に入ってきたのでしょう。毎日かならず何羽か見られています。



ハクセキレイ
一部繁殖



そーと
みてごらん



シロチドリ 繁殖
首は
前で切れて
いる 黒色
ピルッ

コチドリ 繁殖
黒 黄色
ピウ

コチドリ

20日、21日にもうのぞきにきました。池のりんかくは21日にはできていて、23日には堤もだいたい形がとれましたが、コチドリはここから毎日入るようになりました。餌をとっているはずですが、何を食べているのかよくわかりません。20から30羽近くの群れが見られたこともあり、いつも3から5羽がいます。

3月から11月まで見られるので、夏鳥という感じがあまりしません。畑、河原、荒れ地などのむきだしの地面に浅いくぼみを掘り、小石そっくりの卵を4個うみます。水辺にこだわるシロチドリにくらべると、土が出ていれば割合うるさいことは言わないようで、やはり造成地が大好きな種類と言えるでしょう。澄んだ声でピウ、ピウと鳴きます。

イソシギ

24日から28日までは、堤の整形でした。小型のブルドーザーでだいたい形をつけたあと、バックホーのこぶしでガンとたたき、強く押しつけながらつめでけずります。この間は、あまり鳥が見られませんでした。雨がふって水たまりができたところにイソシギが入って、夜の寝場所にもしていたようです。3羽から7、8羽がいつもいます。9月16日などは、アルビノの純白のイソシギが見られました。

河原、海岸など、水辺に普通にみられる小型のシギ。スズメより一まわり大きい手のひらサイズ。ちょうどミスジチョウのようにパタパタと特徴のある飛び方で、水面すれすれに飛び、おりたつと尾をはげしく上下する。チーリーリーと銀の鈴をふるように鳴く。巣は水辺の草かげなどに作るらしいが、見つけにくい。



白い羽が肩で
広がります
イソシギ
チーリーリー
と鳴く

エノコログサ

キアシシギ ソリハシシギ

アオアシシギと一緒に入っていることがあります。9月3日以来キアシシギはたいてい1羽いますが、ソリハシシギは9月8日に見られただけです。アオアシシギが水中で何かやっている（餌さがし？）のに対し、キアシシギはもっと浅いところで、たいていは休んでいるようです。ソリハシシギは短足の割にくちばしが長く、そりががっています。旅鳥。



アオアシシギ 旅鳥
チーリーリー

灰緑色

アオアシシギ

8月30日から水を入れています。思ったより水もちがよい上、ポンプの揚水量も予想以上に多く、おもしろいように水がたまってきました。水があるとのそきたくなるのでしょうか？9月2日にはもうアオアシシギが2羽見られました。だいたい毎日入っているようです。

すらりとした中型のシギで、小さいハトくらい。飛ぶと純白の腰と尾がよくめだつ。チョーチョーチョーと澄んだ声で鳴く。春秋の渡り時に見られる旅鳥だがたまに越冬するものもある。



キアシシギ 旅鳥
ピューイ

黄



ソリハシシギ 旅鳥
フィフィ

オレンジ色

セイタカシギ

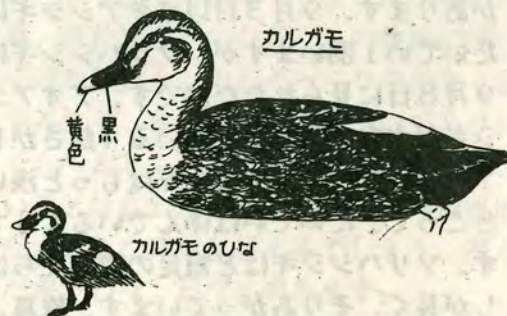
ご存じ、保護区のトップスター。水が満々とたまった9月5日にはもう姿をみせました。10日ごろからはほとんどずっとおちついています。17日には5羽入っていました。餌を漁っているようです。割合汚れた水でも平気で、丸浜川や湊排水機場の遊水池にもよく入ります。予想よりずっと早くきてくれたのには、感激しました。

長い長いピンクの脚が特徴。新浜鴨場では1980年以来毎年繁殖している。もともと日本では迷鳥とされ、めったに見られない珍鳥だったが、1974年に愛知県でヒナが初めて見つかったから、あちこちで少数の繁殖が報告されるようになった。行徳では留鳥として20羽前後がくらしている。



カルガモ

カモたちがもっとたくさん入ることを期待しています。カモは、水の汚れを直接使って増殖するユレモや珪藻などの植物プランクトンを餌にすることができからです。9月14日、カルガモ2羽が入り、どうやらおちつきそうです。



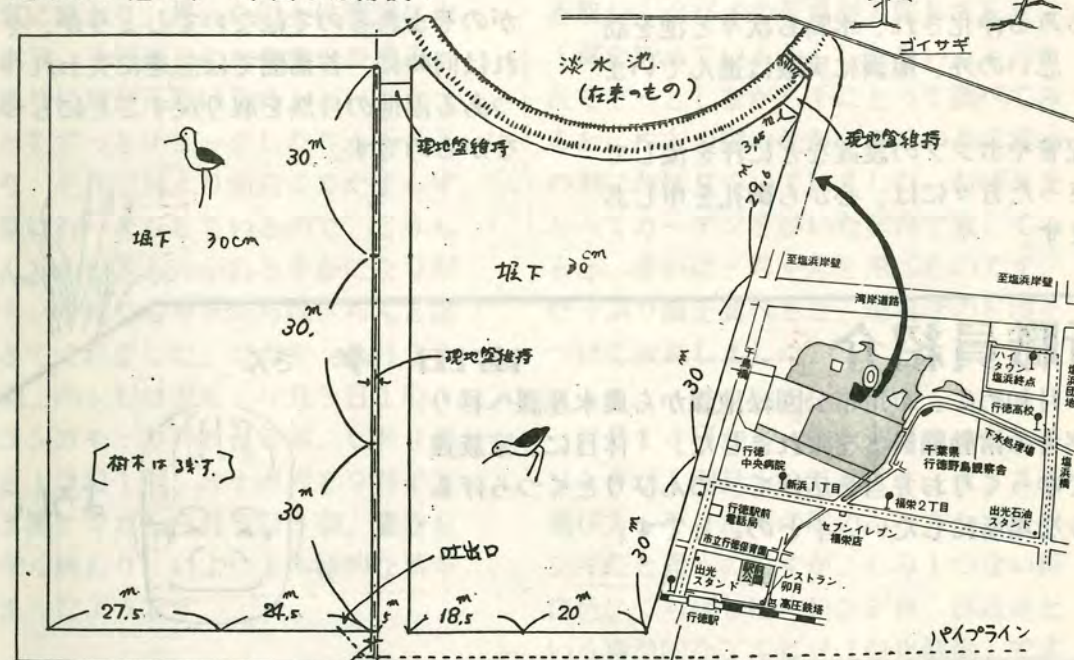
クサシギ
コアオアシシギ

干潟より淡水湿地の方を好むシギで、特にクサシギはあまり見られなくなっていました。9月12日にクサシギ、13日にコアオアシシギが1羽ずつ見られています。この他、ジシギ類、タカブシギ、シロチドリ（ねぐらにも利用しているらしく、最大25羽を見た）なども記録されました。まだ十分な餌がないはずですが、来年が楽しみです。

ゴイサギ・コサギ
ダイサギ・アオサギ

サギ類の餌になるような大型の動物は（魚、ザリガニ、昆虫など）まだ入るわけがないのですが、サギたちも様子を見にきたり、水浴びに利用しているようです。ゴイサギは9月4日から夜ならたいてい見られ、コサギとダイサギは7日から、アオサギは12日からです。サギが餌場にできるほど生物の多い湿地にできさえすれば、実験は大成功なのですが。

このほか、セッカ、ツバメ、モズ、キジ、カワラヒワなどが見られました。あたらしい池のすべり出しは好調！



観察してみよう！新しい池

10月10日(土・祝)

集合：行徳野鳥觀察舎前 午後1時半

解散： 〃 午後3時

担当：東

水車や浅い池で水がきれいになるしくみをもういちど考えてみます。その後、実際に大浜川の水をポンプで汲み上げて池にひいている様子や、新しい池の様子などを観察してみましょう。どんな鳥が来ているかな？



はとお

8月半ば、待ちに待った工事の許可があり、着工から10日間で新しい2つの池が出来上がりました。友の会の手作業で配管や水中ポンプの設置などを行い、8月30日から丸浜川の水を新しい池にひき始めました。

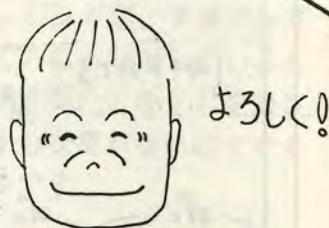
注水量よりも蒸発したり地面に浸透してしまう水の量の方が多く、池に水はたまらないのではないかと心配されていましたが、たったの3日で上の池は満水になり、1週間後には下の池にまで水が行き渡り、ポンプの運転をコントロールして水位を低くしなければならないほどになりました。水も浅い池にひいただけでみるみる浄化され、水鳥も次々と池を訪れ、思いの外、順調に実験は進んでいます。

配管やポンプの設置などに汗を流して下さった方々には、心から御礼を申し上げます。

新職員紹介

富田 孝 さん

7月初めに、市川市公園緑地課から農水産課へ移り、観察舎の常勤職員となりました。「休日に、家族連れでゆっくりお弁当を広げて、のんびりとくつろげるような場所にしたい。」とのこと。



新 入 会 員

住 所 変 更

鳥の国から

虫のオーケストラが最高潮です。8月中はほとんど耳につかなかったカンタンやマツムシが、9月に入ったとたん一気に羽化したらしく、例年にないほどにぎやかに鳴き始めました。小柄なカネタキは室内のそこそこで落ちつきはらってチンチン鉦をたたいています。台所のすみで鳴き立てているのはハラオカメコオロギのはずなのですが、人目につくところに出てくるのは、奇妙なかつこうのをしたミツカドコオロギばかりです。

待望の新しい池の造成があつという間に無事に終わり、思った以上に順調に水がたまり、予想通りに水の浄化が進み、予想通りに鳥が入りはじめ、というようなことをずっとチェックしたり、手を入れたり、それに何より面白くてたまらず毎日見に行ったりしているので、どうも鳥さんとのつきあいがおそろそかになりがちです。それでもカモたちはきちんと渡ってきてくれました。コガモ：8月30日1羽、ハシビロガモ：9月5日1羽、オカヨシガモ：9月6日3羽、ヒドリガモ9月13日1羽。オナガガモ9月13日12羽、マガモ9月5日3羽。暑さもようやく終わり、いよいよ本格的な秋がはじまったようです。

涼しくなるとたんに、急に体が軽くなりました。この夏の熱帯夜には、さすがに音を上げたものですから。でも、てきめんに青潮が始まりました。水門の近くにサギやウミネコが集まるので、すぐそれとわかります。酸欠でふらふらと水面近くに浮き上がってきた魚を鳥がねらうのです。魚や貝の被害が少しでも少ないようにと祈りたい気持。

6月に換羽して、雌とおなじ地味な羽色になっていた入院中のオシドリが、いつの間にかきらびやかな繁殖羽に着替えしました。6月の換羽は2週間ほどでしたが、今度は3週間くらいかかりました。渡ってきたカモたちは、どれもまだエクリプスと呼ばれる雌と似た羽色のままです。このオシドリは羽がすり切れていただけなので、仲間がいるところに放してやろうと思っています。

夏鳥のツバメやコアジサシは、この一週間の間にほとんど姿を消してしまいました。南の越冬地をめざして旅立ったのでしょうか。ところが、9月15日の朝、香取からツバメの若鳥が入院しました。「翼を折っているかもしれない」と言われてぞっとしながら手にとって調べてみると、片方の翼の先が、クモの糸で背中の羽にねばりついていました。ねばりをとってカーテンをひいた室内で放してみると、幸いに、ちゃんと飛べたのです。たっぷり餌を食べさせ、環境庁の足環をつけて放鳥しました。

9月14日から、体全体がまっ白なイソシギが1羽見られています。大きさや飛び方、下りた時の尾のふり方からイソシギだと思うのですが、しみ1つない純白色、くちばしはオレンジ色、目は赤という典型的なアルビノ（白化個体）です。16日には新しい池に入っていました。きっと吉兆に違いないと決めました。

ニセアカシアの葉が、すっかり黄色っぽくなりました。ススキの穂がゆれ、セイタカアワダチソウのつぼみが色づいています。マテバシイのどんぐりは、もう盛りをすぎました。かけ足の秋です。

(蓮尾 純子)

水車ニュース

おかげさまで、とうとう池が完成しました。許可が出てから工事開始まで1週間、それからちょうど10日で造成が完了、さらに、水がたまって池らしくなるまでに1週間そこそこ。昨年10月にトヨタの本研究助成が決まり、11月に池造成の計画を立て、この2月に許可を申請してから半年と延々9か月もかかった待機の期間にくらべると、あっけないほど短い時間でした。書類準備から提出などずっとお世話いただいた市川市と千葉県の方々、工事をお願いした板橋建設さん、蕨木さん、また、朝7時から暗くなるまで、ろくな休みもとらずにいていねいに工事をしてくださったオペレーターの黒沢さん、中学1年の息子さんにお礼申し上げます。

8月の猛暑の中で、友の会の面々も忙しく準備に追われていました。まず、池のりんかくつけ。位置をはかり、ひもをひいて草を刈り、目印のくいを打ちます。次は揚水ポンプの設置。せせらぎ2、3号の2台の水車の間に据える予定でしたが、浮砂がいっぱいたまって浅くなってしまったので、保護区入口の橋のところに変更しました。高圧鉄塔敷設のプロ、田上さんがあつという間に鉄パイプを組んでくださいました。それから延長340mのパイプライン。まず位置ぎめ、草刈り、塩ビのパイプ運びと作業が続きました。一方では、こわれたベットケージに金網をかけたおりが水中ポンプのごみよけ用に作られました。ほとんど週末ごとに続けられた作業も8月29日にすべて終わり、パイプラインは完成、ちゃんと水が池にくみ上げられることを確かめ、30日(日)の通水祝いを待つばかりとなりました。

8月30日の午後2時半すぎ、スイッチが入れられ、やがて新しい池のふちに突き出したパイプの先から、いきおいよく水がほとばしり始めました。集まった人々の見守る中、流れる水はかわききった泥をひたし、みるみるうちに水たまりがひろがっていきます。思わず歓声を上げたくるような光景でした。でも、それまでには悪戦苦闘の2時間があったのです。何しろ、塩ビのパイプはわずかにせよ温度差でのび縮みするのです。かんかん照りのひざしのもとで50~60℃に熱せられたものが、夜には30℃以下に冷めるわけですから、一見いかにもがんじょうなパイプがあめのようにぐんにやり曲がったり、あっさり外れたりします。29日に外れたところを全部なおしたのに、30日の暑さでまたひとところが外れ、大急ぎで修理して、冷却のために水を通し、少し手前に流しておくことになりました。その後も、何かの事情で日中ポンプを止めると、すぐにパイプがはずれる事故が何度かありました。

それでも、完成した池の眺めは苦勞を補ってあまりがたっぷりあるものでした。パイプのまわりの水はさすがによごれており、どぶのにおいがする日もあります。でも30mほどはなれると、においは消え、第二の池に入って間もなく、水はほとんど透明になり、底がはっきり見えます。鳥のことは特集記事にありますが、どこからともなく集まってきたトンボは、しきりに産卵してくれました。シオカラトンボ、ギンヤンマ、(たぶん)アカネ、アオモンイトトンボ……ギンヤンマがおつながりでお卵を生む光景を初めて見ました。ギンヤンマの雌って、尾がほとんど赤に近い茶色だったんですね。でもどの種類も雄のほうが多く、雌は単独で飛ぶひまもなく、すぐおつながりになってしまい、更にもう1尾雄がつながって、3尾で飛ぶのもいたそうです。

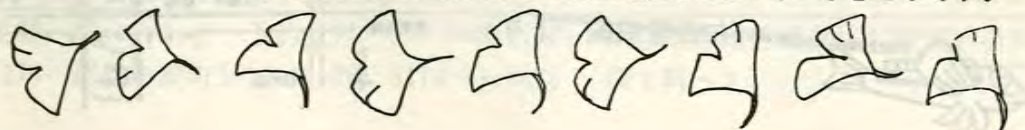


目に見えない変化の方も、きっともっと劇的で面白いものに違いありません。ちょろちょろと泥の表面を洗う水の先端部分では、pHが4と苦しい酸性に傾きました。そして、特にりん酸が急激な減少を見せました。水を入れはじめてから丸49時間後の9月2日の午後には、底にうっすらと緑色が見え、藍藻類のユレモがふえたようでした。同じ時、水中に1~2mmくらいのゼリー状のものがおびただしく漂っているのに気がきました。翌日にはこれはほぼ池の底全体にふえ、白~淡黄色の堆積になりました。数日後には、ところによって鮮やかなオレンジ色をしているのも見られました。13日に見ていただいたところでは、原生動物の繊毛虫類がおびただしく、オレンジから茶色の堆積には輪虫類や羽状珪藻がいっぱいたったそうです。水の汚れ→バクテリア→繊毛虫→輪虫……どうです、食物連鎖がここまできました。大型プランクトンや昆虫類、魚類とつながっていけばよいわけです。りん酸の減少は明らかに植物プランクトンによるものです。今のところ、ユレモをしっかり食べてくれるものがたよりなく、くさったユレモがへどろになることがちょっと心配ですけど。なお、底の泥は水を酸性にする働きがあるとともに、アンモニアを少し含んでいるらしく、アンモニアについてはりん酸のようにゼロ近くまでは下がっていません。それでも、吐出口では10ppmかそれ以上も含まれていたアンモニアやりん酸が、上手の池から下手の池に流れ出る時には0.5ppmくらいになっているという結果は、ちょっとしたものではないでしょうか。

説明が長すぎたり、わかりにくかったら、申しわけありません。実はもう1つ、どうしても書いておきたい面白いことがあるのです。

ポンプで揚水する量は、1日にだいたい530トンくらいです。大きなバケツをおいて何秒でいっぱいになるか調べて計算したものです。猫実、湊の両排水機場で水を排水した時には、福栄公園から保護区入口(欠真間水門;水車が2台あるところ)あたりの水はほとんど残らなくなり、ポンプアップするとあらかたなくなってしまう。大さわざで、観察舎近くのしゅんせつによる深みからみおを作り、水をひきました。すると、これまで水車のところで水がかきまわされるため、かえってよごれがたまっていた芝生の前あたりの泥が、みるみるうちにきれいになってきたのです。ながいこと底に滞留していた水に動きができたようです。測定結果があまりにもよいので、ためしに計算してみると、今年の3月末には観察舎から欠真間水門の間に約400kgも存在していた硫化水素が、9月上旬には80kgに落ちたことがわかりました。水車による酸素量の増加にくわえて、ポンプ揚水による水の動きが効果を上げたと言ってよいと思います。硫化水素は1トンの水に0.4~4gとかすだけで魚が死ぬという有毒ガスです。400kgの硫化水素は、10万~100万トンの水中の魚を全滅させることができるわけです。もちろん硫化水素がなくなったわけではありませんが、減ったことは確かですし、水温の低下で発生量が更に減るはずなので、丸浜川の状態がそうとうよくなることを期待してもよさそうです。もしかして、青潮の誘因をほんのわずかにせよ、減らしたことになるはしないでしょうか。

もしかすると、私たちの実験は、本当にものすごいことなのではないかと思ったりしているのです。ただ、バクテリアのお手伝いをしているだけのことですけれど、次々に出てくる予想外、または予想どおりの展開に、ひたすら目をみはっているところです。



三番瀬と東京湾

風呂田利夫



秋の風が心地よく海に向かって吹いています。この風は浦安から千葉にかけての東京湾奥部の海岸に青潮をもたらす風でもあります。今年は8月から9月のにかけて数回の青潮が発生しましたが、三番瀬には大きな被害はありませんでした。もう大規模な青潮の発生のおそれはありませんから、三番瀬は穏やかな秋を迎えられそうです。

三番瀬では今アサリがいっぱいです。大きさがまだ親指の頭ぐらいで小振りですが来年にはりっぱな大きさになり、2年前と同じような大漁が期待できそうです。三番瀬ではアサリの量が、多いときには1㎡あたり10kgを超えます。瀬にはアサリだけではなくバカガイやカガミガイ、マテガイ、シオフキなどの二枚貝、イシガレイやマコガレイ、アイナメ、ギンボなどの魚類、イシガニやエビジャコなどの甲殻類、アシナガゴカイやチロリゴカイなどの多毛類、アナアオサやハネモ、オゴノリなどの海藻類などもたくさん生息し、東京湾の奥部で最も多種多量の生物が生息しています。

東京湾の海水中にはたくさんの栄養塩類がありますからプランクトンが増殖します。このプランクトンは、海底まで十分な酸素が供給されるためたくさんの生物が生息できる三番瀬のような浅い海域では動物の重要な餌として食べられますが、酸素供給が不十分で生物の少ない沖合いや港湾などの深い海域ではそのまま有機物となって海底を汚します。つまり東京湾では浅い海底が海水浄化と生物生息地として重要な役割を果たしています。

東京湾を私達の大切な環境として生かすには水質を保全し、漁業を振興させ、多くの海洋生物が生息し、住民が安全に海水に触れることができることが必要とされます。この条件を満たす海域は東京湾奥部の首都圏のなかには三番瀬しかないのです。三番瀬の保護とそれを前提にした海岸の親水性回復が、東京湾を都市環境として生かす重要な課題です。

三番瀬とは？

三番瀬というのは、行徳沖から船橋沖にかけて広がっている、面積916万ha（新浜保護区の約11倍）、水深が0から5mの浅海のことです。アサリやノリがとれるとても豊かな漁場です。

「船橋浦三番瀬こそ、まさに豊穡としごくの海であり、象徴としての東京湾漁業をここに見る。」

（「東京湾で魚を追う」大野一敏・敏夫

加藤雅毅編より）



ふなばし浦三番瀬まつり

1987

9月27日(日)

午前7時 東京湾漁業船上見学会 大人1000円/子供500円 ～9時

予約制 受付事務局で 9/21まで 先着65名

1) 貝とり漁業船上体験 お土産つき 2000円 ～8時半

予約制 受付事務局で 9/21まで 先着18名

9時 100m水槽 三番瀬の生物いきいき水族館 ～終日

活・カレイ、カニ、ハゼ、アイナメ、アサリなどなど

路地裏絵図オリエンテーリング (自遊人協会)

2) 貝とり漁業船上体験 お土産つき 2000円 ～10時半

予約制 受付事務局で 9/21まで 先着18名

10時 大漁市 心のこもった ガラージセール ～終日

古本、古着、大漁旗、漁船、スクリーン、ガラクタ

1) ふなばし浦三番瀬見学会 500円/300円 ～11時

渡し船がでるぞお! 片道 50円 30分毎 ～16時

11時 三番瀬定食!? モギ店が開店です。うまい ～終日

焼そば、餅、イワシ焼、あさり焼、ビールなどなど

12時 1) アサリと魚の無料配布(先着300名)

ウィンドサーフィン デモンストレーション

午後1時 ワイルドの店オープン(鯨のTシャツ等) ～終日

2) ふなばし浦三番瀬見学船 500円/300円 ～14時

渡し船がでるぞお!! 片道 50円 30分毎 ～16時

1) ふなばしベイサイドジャズデキシー

1時半 2) アサリと魚の無料配布(先着300名)

2時 漁船で海上散歩 お土産つき 1000円 30分間 2ツアー

漁師と行く航海、おもしろい話が聞けるかも?

2時半 3) アサリと魚の無料配布(先着300名)

3時 大漁旗オークション(やっと買えた!?)

なかなか手に入らない本物の大漁旗は、かっこいいよ!

2) ふなばしベイサイドジャズデキシー

4時 100m水槽つかみ取り大会 300円(100名)

参加費を払って、袋をもらってイザ出陣。カニだあ!!

4時半 渡し船が終わるぞお!!

5時 三番瀬海の幸プレゼント抽選会

抽選券を手に参加しよう。魚・貝一箱、大漁旗一本など

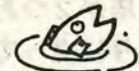
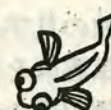
6時 ジャズショーボート 船上ビールつき 2000円

波の上のJazzは、ビールと共に格別だ。

7時 みんなで清掃、閉会式だよ!!

○主催・問い合わせ・予約受付

ふなばし浦三番瀬まつり実行委員会



マイポ訪問記 その3

東 良一

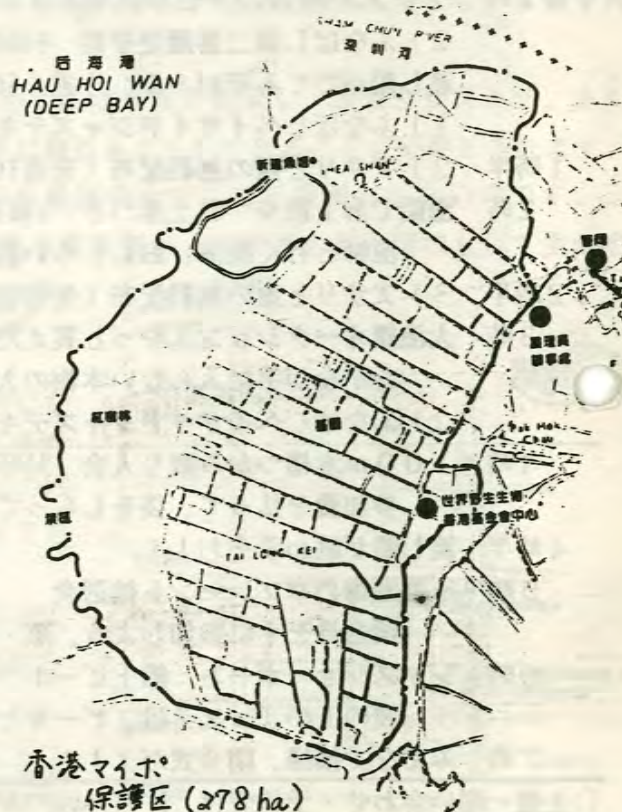
展示館の見学を終ると、Drチャンが車で保護区を案内してくれることになった。楕円形の保護区を縦断する観察路を車で進んでいくと、大きな黄色っぽい鳥が観察路を横切った。サンカノゴイ?! マイポでもかなり珍しい鳥らしく、Drチャンも大喜びだ。

左手の池には300羽近くのムナグロが群れている。その池のはじめで20人ほどのおばさん達が何やら作業をしている。Drチャンに聞くと、アシを刈っているとのことだった。マイポでもアシの侵入にはかなり頭を痛めているようだが、今のところこうやって手作業で刈り取る以外、対策はないようだ。

1kmほど行くと、見慣れない高さ10mほどのフェンスにつきあたった。地表から1mの高さあたりまでは鉄条網がしっかりと巻きつけてある。フェンスの向こうはDeep Bayという湾になっていて、その湾を越えて中国から密入国する者が多いらしい。1kmほどおきに15mほどの見張り塔が2つあり、銃をかついだ歩哨が見張りに立っている。巡回している歩哨とも2人ばかりすれちがった。Drチャンは笑顔で挨拶しているが、こちらの方は、鈍い光を放つ銃に目が引かれつつ顔がこわばってしまう。マイポへ行くと行ったら、タクシーの運転手にしきりに許可証を持っているのかと聞かれたわけがやっとわかった。そういえば、この保護区に入ってから以来、一般の香港人とは誰とも会っていない。定期的に探鳥会は開かれているとのことだが、自然保護だけでなく政治的な意味でも一般の人がこの保護区に入るのはかなり難しいということだ。

フェンスに沿って、保護区の入口の方へ戻る。今度は右が保護区の池で、左にはフェンス越しにDeep Bayへと続くマングローブの林が見える。保護区の池にはシギやチドリの群れ、左手のマングローブの林がぽっかりと開けた所にはコガモやヒドリガモなどのカモが群れている。春秋の渡りのシギ・チドリ、冬の枯れたアシ原を背景にしたカモの群れを見慣れた目には、その光景は季節がゴッチャになって一度にきたようで何とも奇妙なものに映った。

やがて、道がゆるやかなカーブを描き前方に緑の管理事務所が見えてきた。4時間ほどの見学だったが、無理をして頼みこんで来た甲斐は十分にあった。



欧米の立派な保護区の話は前から聞いていたが、同じ東アジアのこんな近くにこんなしっかりした水鳥保護区があるとは思ってもよらなかった。新浜保護区に完成した新池を管理していく上で、参考になること、見習うべきことは実に多い。海水と淡水の使い分け(マイポには海水・淡水、2種類の池があり、海水の池にはマングローブ、淡水の池にはアシが生えている。)、アシなどの植生のコントロール、etc.……。また、新池での汚水浄化が成功すれば、開発の進む香港で将来、マイポに家庭排水や工業排水などの汚水が流入するようなことになった場合、逆

にこちらから貴重なデータを提供できるのではないかなと思う。

当面はこちらから学ばせてもらう一方だとは思いますが、これを機会に友の会の活動が日本の外へも目を向けていけるようになれば、とも考えている。

マイポも新浜も、季節感や数こそ違うものの、シギ・チドリ・カモなど鳥の種類はほとんど同じなのだから……。



行事案内

誰でも自由に参加できます。参加費無料。

☆定例新浜観察会(毎月第2日曜日) 10月11日、11月8日

集合: 東西線行徳駅前 午前10時

解散: 行徳野鳥観察舎 午後3時頃

担当: 東 良一

持物: 昼食、飲み物、バス代(大人300円位、子供150円位)、

水鳥などを観察しながら江戸川の土手沿いを歩きます。河口付近で昼食。午後からバスで保護区へ向かいます。8月末に完成した保護区の新池には、淡水カモなどがたくさん来ていることでしょう。

☆定例園内観察会(毎月第1・3日曜日) 10月4日・18日、11月1日・15日

集合: 行徳野鳥観察舎前 午後1時半

解散: " 午後3時半

担当: 観察舎 蓮尾、協賛 友の会

新池ができて、園内巡りの楽しみがまたひとつ増えました。シギ達が南へ渡り、代わってカモ達が北からやってきます。2時間足らずですが、保護区の小さな自然を満喫して下さい。

☆夕暮れ観察会

10月25日(日)、11月22日(日)

集合: 行徳野鳥観察舎 午後4時半

解散: " 午後6時頃

夕暮れ時、ねぐらへ向かう鳥達を観察しながら保護区をひとまわります。夕焼け空に浮かぶカモやサギのシルエットはみごとです。参加者が少ない割に、かならずよいことがあるという評判の観察会です。寒くなりますので、身仕度はしっかりと。

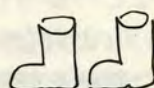
☆丸浜バードリバーを調べよう（毎月第4日曜日） 10月25日、11月22日

集合：行徳野鳥観察舎 午前10時

解散： 〃 午後3時頃

担当：東 良一、矢野耕一

持物：長ぐつ、タオル、ビニール手袋、昼食



底生生物調査の調査地点に、新池が加わり、調査がますますおもしろいものになります。家庭排水が水車や、浅い池できれいになっていく様子を自分の目で観察してみませんか？調査員募集中ですので、お気軽に御参加下さい。

☆観察してみよう！新しい池

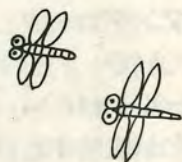
10月10日（土・祝）

集合：行徳野鳥観察舎 午後1時半

解散： 〃 午後3時

担当：東

8月末に完成した、水鳥誘致実験用の新池を観察します。どんな鳥達がやってきてるでしょうか！



☆ふなばし浦三番瀬まつり

9月27日（日）

楽しい催しがいっぱい。詳しくはPIIをみて下さい。



会員の田久保晴孝さんから、亡くなられた奥様、文子さんのお香典の一部として5万円のご寄付をいただきました。ご遺志を生かし、有効に使わせていただきたいと思います。どうもありがとうございます。

編集後記

今年はずいぶん虫が多くありませんか。トンボやコオロギは大かんげいなのですが、私がこの世で何よりおそれているもの……飛んでくるゴキブリ、お風呂の中のムカデ、シーツの上のアリさんにみーんなお会いしてしまいました。おまけに、何と10年ぶりに、空内に侵入したクロベンケイガニがいたんです。これも水車のおかげかしら！？（純）

ふと見ると、北池の水面に小さな黒い影が十数個。青潮で魚が浮いたのかと思ってプロミナで見ると、みーんなコガモでした。新しい池もできたし、両手を広げてカモ達を迎えたい気分です。（馨）

すずがも通信 No. 46

1987年10月1日発行

発行所 行徳野鳥観察舎友の会

年会費 一般1000円、ジュニア500円

発行人 東 良一

事務局

編集 蓮尾純子、東 馨子

行徳野鳥観察舎